

石川・本町一丁目遺跡

ほんまち

1 所在地 石川県金沢市本町一丁目

2 調査期間 一九九四年(平6)八月～一〇月

3 発掘機関 金沢市教育委員会

4 調査担当者 前田雪恵

5 遺跡の種類 集落跡・町屋跡

6 遺跡の年代 弥生時代終末期、一七世紀～一九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は金沢城の北西1kmにあたり、城を囲む外堀(西外総構堀)の外側に接している。延宝年間(二六七三～八二)の城下絵図で



(金沢)

は町人地となっており、元禄三年(二六九〇)以降、一九四一年まで鍛冶片原町と呼ばれていた地点である。調査面積は約一六〇㎡である。調査区内には弥生時代の溝・土坑と、江戸時代の建物の礎石、井戸、十数基のごみ穴が存在していた。

木簡はごみ穴SK三二から出土した。これは粘土を採った跡をこみ穴に転用したものと考えられる。調査区の角隅にあつたため、おそらく全体の半分ほどしか検出していないが、短軸二・四m長軸三・六mの半楕円形を呈し、深さは一・二mを測る。木片・木製品(ヘラ・曲物・箸箸など)が多く出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「>利承り候九郎様」^[花カ] 178×20×3 0332

(2) 「通り札」 230×46×10 011

(1)は柁目材である。薄い板の上端を剣先のように鋭角に形作り、その少し下を両側から小さく削り込んでいる。欠損箇所はない。

(2)は柁目材である。厚めの長方形板であつたと思われるが、上部の両側が斜めに欠損している。

9 関係文献

金沢市教育委員会

会『本町一丁目遺

跡Ⅱ 鍛冶片原町

地点』(金沢市文化

財紀要二三三、一九

九七年)(前田雪恵)

